

学校経営計画に対する中間報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 【授業改善】 生徒が主体的に取り組むよう、授業形態を工夫し、ICT機器を効果的に活用することで、基礎的な知識・技能の定着とともに、思考力、判断力、表現力、およびコミュニケーション力の育成を図る。	① 積極的に主体的・対話的で深い学びの授業を実践し、生徒の資質・能力の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びの授業の実践により、授業担当生徒の7割以上が、各教科の特性に応じた資質・能力が確実に向上していると回答する教員の割合が A 80%以上 B 60%～80%未満 C 40%～60%未満 D 40%未満	教員対象に 7月にアンケート調査 100% 中間評価 A	「十分に向上させている」「ある程度向上させている」を合わせた評価は100%となり、判定基準の80%を大きく上回る高い結果となった。同時期に実施した生徒対象の授業評価アンケートでも、「学力・技術・技能等が確実に向上する授業である」に「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した生徒が98%のほり、教員・生徒相互に生徒の資質・能力の向上を実感している結果となった。 後期も引き続き Chromebook 等を効果的に使用して、学びが深まる授業を全教員が実践していきたい。
		主体的に取り組む授業形態により、意欲的に参加していると回答する生徒の割合が A 80%以上 B 60%～80%未満 C 40%～60%未満 D 40%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 97% 中間評価 A	「あてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせた評価は97%と判定基準の80%を上回り、前年度同期(96%)同様に高い結果となった。同時期に実施した学習状況アンケートでも、「日々の学習に積極的に取り組むことができた」に「よくできた」「できた」と回答した生徒が94%のほりっている。 後期も資格取得も含めた学習に主体的に取り組む、学力向上につながるような働きかけを継続していきたい。
		授業によって思考力、判断力、表現力、およびコミュニケーション力が向上したと回答する生徒の割合が A 80%以上 B 60%～80%未満 C 40%～60%未満 D 40%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 94% 中間評価 A	「とてもある」「どちらかといえばある」を合わせた評価は94%と、判定基準の80%を上回る高い結果となった。同時期に実施した学習状況アンケートでも、「自分の意見を述べることにより学習内容が深まった」に「あてはまる」と回答した生徒が97%のほりっている。自分の思考を言語化し、相手に伝わる表現を考えることが学習内容の理解が深まる相乗効果となっている。 後期も思考、意見交換、発表等の時間を確保し、更なる向上につながる授業を全教員が実践していきたい。
2 【進路実現】 ものづくりやキャリア教育について学び、工業の技術・技能を習得し、資格や検定・コンテストなどに積極的に取り組むことを通じて、個々の生徒に応じた進路の実現を目指す。	① 企業との連絡を強化し、生徒に有益な情報を提供して進路相談を充実させる。同時に、学年と協力して、生徒が主体的に進路を考える機会を増やし、キャリア教育を強化し、進路意識を向上させる。	就職希望者の1回目の就職試験における内定率が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	10月末における内定率を検証する 評価 なし	
		② ジュニアマイスター顕彰のゴールド特別表彰およびゴールド・シルバー・ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めるため、ICT機器を活用した積極的な取組を行うことにより、認定者数を増加させる。	ジュニアマイスター顕彰ゴールド、シルバー、ブロンズの認定者数が学校全体で A 40人以上 B 30人～39人 C 20人～29人 D 20人未満	前期(7月)の認定者数を検証 前期認定者数 18人 中間評価 D
学校関係者評価委員会の評価		○社会ではコミュニケーションが必要である。自分の意見と合わない場合など、話し合って結論を導き出すといった力が必要である。実際にICTを活用して指導している先生方は、生徒のコミュニケーション力についてどのように感じているのか。 ○資格を取るための目標設定の計画を一人ひとり年度当初に作成させたらどうか。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○クロムブックを使用した授業により、生徒は話したり発表したりする力はついてきたと感じる。全教員の授業改善に対する意識をより高めることにより、生徒がより主体的に授業に参加し、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を育成していく。 ○生徒には、入学後や年度当初に資格取得の有意さを十分に説明している。さらにより見通しを持たせるため、資格カレンダーを作成した。その結果今年度は資格取得の意欲が向上し受験者数が増加している。教員に対しても補習に対する手当の支給も実施しており、学校全体で資格取得の体制をより充実させていきたい。		

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
3 【人間力育成】 「部活動や生徒会活動の活性化」、「規範意識を高め、いじめを見逃さない学校づくり」、「ボランティアや地域貢献」等を通じて人間力を積極的に育成する。	① 生徒会の運営について、生徒会執行部が生徒にアンケートを行い、全校生徒が主体的に計画や立案に参加することで、行事への参画意識を高める。	生徒会行事に参加し、満足できたと回答する生徒の割合が A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 99% 中間評価 A	「大変満足している」・「おおむね満足している」を合わせた評価は99%とA判定基準の95%を上回り、非常に高い数値となった。今年は何年以上に生徒会を中心に学校行事を運営し、生徒が学校行事に自主的に参加した結果だと考えられる。後期も多くの行事が予定されており、伝統ある行事を生徒がより満足して参加できるような行事運営を目指したい。
	② 運動部・文化部の重複加入を奨励し、各自の目標達成に向けて真剣に取り組むことで、心身ともに成長を実感できる。	部活動で、目標を設定し達成にむけて取り組んでいると回答する生徒の割合が A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満	部加入生徒対象に 7月にアンケート調査 89% 中間評価 C	「十分実感している」・「おおむね実感している」を合わせた評価は89%と、C判定となり、B基準には届かなかった。昨年度は95%とA判断基準を満たしているため、大幅に悪化したものと捉えることができる。結果を踏まえて、各部活動顧問の先生方にチームの目標や個人の目標等の設定を依頼し、後期の改善に繋げていきたい。
	③ 校内外であいさつをしっかりとおこなうことで、他者をおもいやる意識を高めコミュニケーション力の育成の足掛かりとする。	学校以外(地域や登下校時)でも積極的に挨拶ができていると回答した生徒の割合が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 94% 中間評価 A	「十分できている」・「ある程度できている」を合わせた評価は94%と、A判定基準の90%を上回った。「朝の挨拶運動」や部活動や授業などで先生方が挨拶の重要性の指導を行ったことが高い数値につながったと考えられる。後期も引き続き挨拶の重要性を指導していきたい。また、生徒の挨拶に対する意識も向上するよう働きかけていきたい。
	④ 規則やマナーを守り、思いやりの心を育むため、生徒への声かけや観察を通じて生徒理解を深め、規範意識といじめ防止の意識を高める。	本校の教育活動や規範意識向上の取組により、規範意識やいじめ防止の意識が身につけていると回答した生徒の割合が A 100% B 95%～100%未満 C 90%～95%未満 D 90%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 99% 中間評価 A	「十分身についた」・「ある程度身についた」を合わせた評価は99%と、前年度同期(99%)と同様に高い結果となった。「朝の挨拶運動」や「規範意識週間」等の取組に加えて、「身だしなみに関しての学年集会」や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止」等の指導をこまめに行うことによって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。後期も、引き続き取組を継続し、生徒の行動が変容するよう工夫していきたい。
4 【情報発信】 本校の諸活動や工業の魅力・楽しさを保護者や地域に発信し理解を得るとともに、特に中学生への積極的な情報発信を通じて、志望者数の増加を図る。	① 保護者懇談会以外の学校行事に対し、メール配信や羽工便り、ホームページ等の既存の手段に加え、新たなアイデアや工夫を取り入れ、保護者の来校者数を増加させる。	学校公開や文化祭、マラソン大会、PTA活動のような行事等(保護者懇談会は除く)で来校したことのある保護者の割合が A 70%以上 B 50%～70%未満 C 30%～50%未満 D 30%未満	保護者対象に 7月にアンケート調査 47% 中間評価 C	来校した保護者の割合は47%で、評価はCである。特に、5月に行われたPTA総会では、時間割編成を大幅に見直し、授業参観を早め、新たに講演会を設け、部活動見学の時間を長く取るなど、保護者が来校しやすいように工夫した。また、校内陸上競技大会の給水のお知らせや学校行事の告知をホームページや「羽工だより」に掲載し、早めの広報活動を試みた。後期には、11月には石川教育ウィークが控えており、羽工祭や校内マラソン大会も企画されている。今後もさらなる広報活動の充実を図りたいと考えている。
	② 本校の活動を広く知ってもらうために、在学生やその保護者、中学生、地域の方にホームページで発信し、積極的に見てもらう工夫により、その閲覧数を増やす。	ホームページの閲覧回数の月平均で判断する。 A 30,000件以上(1日約1000件) B 26,000件～30,000件未満 C 22,000件～26,000件未満 D 22,000件未満	5月の閲覧回数 約40,000件 6月の閲覧回数 約65,000件 7月の閲覧回数 約51,000件 中間評価 A	閲覧回数は毎月30,000件以上となり、評価はAである。4月から学校行事等を中心に早めの更新を行い、また、各科・各分掌・部活動においても先生方がホームページにアップしたので情報発信が充実してきた。1学期お進路選択のため、中学生による閲覧も多くあったのではないかと予想される。在校生や保護者にも一斉メールでHPを閲覧するように通知したのも閲覧数増加に繋がったと思われる。今後は、より見やすいホームページになるように工夫し、古い情報を更新していき、羽工工業高校の今を積極的に発信していきたい。
5 【働き方改革】 教職員相互の業務点検による平準化で業務を分担するとともに、協力体制を構築し、更なる働き方改革を推進する。	① 校務分掌ごとに業務内容を点検して改善に努めるとともに、ICTを活用し情報伝達のスピード化と共有化を高めることで協力体制を構築して組織的な業務の平準化を進める。	自らが担当する業務を改善するとともに他の職員が担当する業務に協力することで、業務が平準化していると回答する教員の割合が A 70%以上 B 50%～70%未満 C 30%～50%未満 D 30%未満	教員対象に 7月にアンケート調査 81% 中間評価 A	「十分に取り組み進んでいる」・「ある程度取り組み進んでいる」と答えた教職員の割合が、判定基準の70%を上回ることができた。今年度の大きな変更点として、定期試験を年間5回から3回に削減した。これにより授業時数を確保し、先生と生徒が余裕を持って授業を行うことができた。また、従来午後に行われていた1学期終業式を午前中に前倒しし、午後から保護者懇談会を行うなど、日程の再検討に努めた。後期も、各課で重複している業務の見直しや作業の効率化の余地が残っている部分に着目しつつ、各分掌間で協議を進め、業務の平準化や多忙化改善に向けた取組を進めていきたいと考えている。
学校関係者評価委員会の評価		○日頃、発表しない生徒が自ら挙手をして発表したことはすばらしい。そういう生徒をうまく評価してほしいと感じた。そうすると「自分も挑戦してみよう」と思う生徒が増えるのではないかと。 ○ホームページに、その日の内に学校の出来事を発信されているのはすばらしい。引き続き早めの情報発信をお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		○生徒を褒めることで、モチベーションをアップさせる。自分の意見を発表する場をさらに設け、コミュニケーションの大切さを感じるように工夫したい。 ○ホームページの更新、一斉メール等、引き続き情報発信に取り組む。		